

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ことばの たいそう」 教材名「こえに だして よもう」

2 単元の目標

語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（〔知識及び技能〕(1)ク）

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

詩の言葉から内容の大体を捉え、響きを楽しんで音読する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）	①詩の言葉から内容の大体を捉え、響きを楽しんで音読する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

詩の言葉から内容の大体を捉え、響きを楽しんで音読する。この教材では、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。想定する難しさは、速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(C(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「その言葉を声に出すと、どんな動きや様子が思い浮かびますか」 【めあて】詩の言葉から内容の大体を捉え、響きを楽しんで音読する。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「その言葉を声に出すと、どんな動きや様子が思い浮かびますか」 詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。 想定する難しさ：速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子結び付けない。 評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その言葉を声に出すと、どんな動きや様子が思い浮かびますか」。中央は、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

